

カラーユニバーサルデザインの社会的実践

工学院大学 情報学部 准教授 市原 恭代

【お問い合わせ先】 TEL : 03-3340-0231 E-MAIL : ichihara@cc.kogakuin.ac.jp



科学研究費助成事業(科研費)

色覚の多様性は、コンピュータ画像等を用いた美術色彩教育へどのように影響するか(1998-1999 奨励研究(A))

日本の色彩教育とアニメーション(2005-2006 基盤研究(C))

デジタル教科書のカラーユニバーサルデザイン(2013-2016 基盤研究(C))

防災地図のカラーユニバーサルデザイン(2016-2020 基盤研究(C))

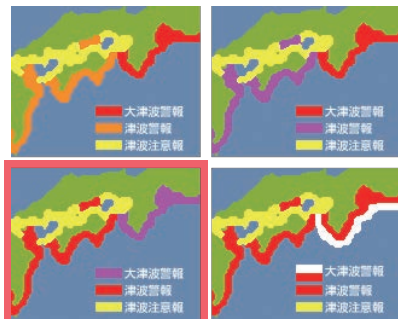


図1 津波警報のカラーユニバーサルデザイン
今までなかった大津波警報の色を紫に定める

光村出版の委託研究:「教科書のカラーユニバーサルデザイン」(2010-2015)
山川出版社の委託研究:「社会科教科書のカラーユニバーサルデザイン」(2011)



- 図2 (上) 歴史教科書のカラーユニバーサルデザイン
色分け地図が誰にでも見やすいように色を決める。
- 図3 (下) 東京メトロのカラーユニバーサルデザイン
色とともに文字・数字を入れる地下鉄ナンバリングマップの試み。

人間の色の感じ方(色覚)は様ではなく、遺伝子のタイプの違いやさまざまな目の疾患のために、色の見え方が一般の人と異なる多様な色覚を持つ人は、日本には300万人以上存在するといわれている。
また一般の方でも色覚は年を重ねることによって変わることもある。

情報の誤伝達が起きることを防ぐため、より多くの色覚に配慮した色彩デザインであるカラーユニバーサルデザイン(CUD)の実践は必要となる。

たとえば、「赤」と「緑」を混同するタイプの色覚特性を持つ子供たちは色を識別できないことが理由で学習に支障を来すことがある。
そこで、小学校の教科書をCUDの観点から監修し、「赤」と「青」などできるだけ識別しやすい色づけをすることや、表やグラフには色だけではなく文字も入れることを提案した。

また気象庁の雨量図では、雨量情報を色に変換して表示させているが、人により色覚特性が異なることから、同じ色でも雨量を多く感じる人とそうでない人に分かれてしまうことがあった。
そこで、注意・警戒レベルの配色に統一性を持たせるとともに、高齢者等にも識別しやすい配色となるよう、気象庁ホームページにおける気象情報の配色に関してCUDの観点から助言を行った。
2012年に気象庁が定めた指針に反映されている。